

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

究極の効率化に向けた知財 DX～基礎から AI 活用までご紹介～.docx

ドキュメント

要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

このドキュメントは、株式会社 root ip の代表である大倉氏が知財 DX(デジタルトランスフォーメーション)の効率化に向けた取り組みについて解説したセミナーの内容です。主な内容は、AI や API 連携を活用して知財業務の自動化を進め、競争力を生まない作業を削減することにより、本業に集中できる環境を整えることが焦点となっています。

以下はドキュメントの主要なポイントです:

1. 知財 DX の基本概念

知財業務における自動化と効率化の重要性が説明され、AI の導入によって、反復的な作業を減らし、競争力のある業務に集中できるようにすることが目指されています。

2. root ip のシステム機能

root ip が提供する知財管理システムは、メールやファイル、商標、特許関連データを自動化・管理するための多機能なプラットフォームです。API 連携を活用して、特許庁や外部ストレージ(Dropbox など)と自動連携することが可能で、知財管理の効率を大幅に向上させています。

3. AI の活用

生成 AI の活用による文章チェック機能や、メールの自動化が強調されており、特に誤字脱字の検出や、メールの自動返信、案件管理の自動化などが具体的に紹介されています。

4. 事例紹介

ユーザー事例として、パラマウントベッド株式会社の取り組みが紹介されてお

り、Python や API を使って自社内で高度な知財システムを構築し、大幅な業務効率化を実現している点が強調されています。

5. 今後の開発計画

API 連携の拡充、AI サービスの拡張、セキュリティ対策の強化など、今後の開発予定についても言及されており、ユーザーからのリクエストに基づいた開発が進められているとのこと。

このプレゼンは、知財業務の効率化を進める上で、AI や API 技術の活用がいかに重要であるかを示すものであり、root ip の技術的な優位性と今後の展望を伝えています。

4o

あなた:

知財 DX の基本概念をくわしく

ChatGPT:

ChatGPT

知財 DX の基本概念に関して、ドキュメントの内容に基づいて詳細に説明します。

1. 知財 DX の目的: 業務効率化と競争力向上

知財 DX の基本的な目的は、知的財産に関連する業務をデジタル技術によって効率化することです。特に、自動化技術や AI を活用して、反復的な作業を大幅に削減し、知財の競争力を生まない作業(非本質的な業務)をできるだけ少なくすることが重要視されています。

企業が持つ知財業務は多岐にわたり、出願手続き、年金管理、文書作成、特許庁とのやり取りなど、非常に多くの作業が含まれます。これらの作業はしばしば複雑で、時間や人手がかかるため、知財部門のリソースを消耗させ、結果として競争力を生む業務(戦略的な知財管理や価値創造業務)に十分な時間を割けない問題が発生します。

知財 DX の目標は、これらの時間を消費する反復作業を、デジタル技術で可能な限り自動化し、知財担当者が本来注力すべき戦略業務に専念できる環境を作ることです。

2. DX による自動化の範囲

知財 DX では、知財業務の中でも「競争力を生まない作業の自動化」が鍵となります。競争力を生まない作業とは、特許や商標の申請や管理に伴う日常的なルーティン業務（書類作成、データ入力、期限管理、審査対応など）です。これらは知財の価値を直接生むものではなく、手続き上必須の業務であり、自動化の対象として最適です。

具体的な自動化の範囲は以下のようなものが含まれます：

- **書類の作成と管理**: 特許出願書類、年金管理書類などの自動生成やフォーマットへの自動挿入。
- **データの収集と整理**: 特許庁や外部データベース（J-PlatPat、US PTO など）からのデータ自動取得と管理。
- **メールの自動化**: AI を用いたメールの自動分類、応答、案件情報への転記。
- **年金管理の自動化**: API 連携による年金データの管理、自動通知、年金支払手続きの効率化。

3. API と CSV による連携

知財業務において、各種システムやデータベースとスムーズに連携するための技術として、API と CSV ファイルが重要な役割を果たしています。

- **API (アプリケーション・プログラミング・インターフェース)**
API はシステム間の自動的なデータ連携を可能にします。知財 DX では、特許庁や外部ストレージ（Dropbox、Google Drive など）、他の企業システムと API を通じてデータをやり取りし、手動の入力作業を減らすことができます。
- **CSV ファイルの活用**
CSV (カンマ区切り値) 形式のファイルは、データの入出力に使われます。API が使えない場合でも、CSV 形式のファイルを利用してシステム間でデータをやり取りできるため、デジタルシステムの連携を実現しやすくなります。

4. AI の活用

AI は知財 DX において不可欠な技術です。特に生成 AI を活用することで、文章チェックや書類作成、データ分析、メールの自動処理などを行うことが可能です。例えば、特許明細書の文法チェックや、文書の適合性を AI が瞬時に判断し、必要な修正点を提案する機能が取り入れられています。

5. RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)の限界

RPAはユーザーの操作を模倣してクリックや入力作業を自動化する技術です。しかし、RPAは特定の操作に依存しているため、ソフトウェアの更新や変更によって動作しなくなることがあり、信頼性に欠けるという限界があります。そのため、知財DXでは、RPAは最後の手段として使用されるべきとされています。

6. 知財DXによる競争力強化のポイント

知財DXの最大の強みは、日常の作業負担を減らし、知財担当者がより価値のある業務に集中できることです。具体的には、戦略的な知財管理や競争力のある特許の出願、知財戦略の立案、企業の知財ポートフォリオの最適化などです。

これにより、企業は競争力を生み出す業務にフォーカスし、効率的に知財資産を活用できるようになります。

以上が、知財DXの基本概念についての詳細な説明です。知財業務の効率化を図りながら、競争力を生む業務への注力を支援するデジタルトランスフォーメーションが目指されています。

4o

あなた:

root ip のシステム機能についてくわしく

ChatGPT:

ChatGPT

root ip のシステム機能について、ドキュメントの内容に基づいて詳しく説明します。

1. システムの概要

root ip が提供する知財管理システムは、企業や特許事務所向けに、特許や商標、意匠などの知的財産を一括管理し、業務効率化を図るための包括的なソリューションです。このシステムは、知財関連の業務を簡略化し、時間や手間を削減するために、多くの自動化機能やAPI連携、AIを活用した機能を備えています。

主な機能は以下の通りです：

2. 案件管理機能

案件管理機能では、特許出願や商標登録など、知財案件に関連する全ての情報を電子的に管理できます。以下は主な機能の詳細です。

- **To-Do リスト**
案件ごとにやるべきことが To-Do リスト形式で表示されます。例えば、年金支払期限や審査対応の期限など、重要なタスクを視覚的に管理できます。このリストは自由にカスタマイズ可能で、ユーザーのニーズに合わせて設定できます。
- **カレンダー表示**
案件の進捗状況や重要な期限をカレンダー形式で確認でき、特定の日付に合わせて案件の整理や管理が可能です。
- **ダッシュボード機能**
案件の統計情報や進捗状況を可視化するためのダッシュボード機能も提供されています。地図上に特許案件を視覚化する機能や、統計データのグラフ表示が可能です、企業全体の知財ポートフォリオの状況を一目で把握できます。

3. 電子包袋管理

電子包袋管理機能では、特許出願や商標登録に関する書類をすべて一元的に管理できます。特許庁への出願番号や審査対応書類、登録証明書などが簡単にアクセス可能です。

- **J-PlatPat とのリンク**
J-PlatPat やヨーロッパ特許庁(EPO)などのデータベースと API 連携しており、国内外の特許情報に瞬時にアクセスできます。これにより、国内案件だけでなく、外国案件のファミリー情報や引用文献などをすぐに確認できます。
- **書類の閲覧と管理**
過去の拒絶理由通知書や審査過程の書類も簡単に閲覧可能です。また、引用文献などもリンクされているため、関連資料へのアクセスが容易です。

4. 翻訳機能と事務所向け機能

root ip には、翻訳コストを削減するための自動翻訳機能や、知財事務所向けに特化した機能が搭載されています。

- 機械翻訳機能**
 特許文献や外国出願において、IDS(情報開示文書)などの翻訳コストを抑えるために、機械翻訳機能が内蔵されています。これにより、外国文献の翻訳を迅速に行い、特許事務の負担を軽減します。
- 事務所向けテンプレート機能**
 特許事務所や代理人向けに、通知書や報告書などを簡単に作成できるテンプレート機能も提供されています。書類番号や日付などの情報が自動で挿入されるため、書類作成の手間が大幅に軽減されます。

5. ファイル管理と外部ストレージ連携

root ip は、Dropbox や SharePoint などの外部ストレージサービスと連携し、知財関連のファイルを一元管理できます。

- 外部ストレージとの連携**
 Dropbox、Box、SharePoint などの外部ストレージサービスと API 連携し、外部ストレージ上のファイルを root ip のシステム内で管理・編集できます。また、完成したファイルをシステム内に移動させて、変更を防ぐこともできます。
- ファイルの一括コピー機能**
 特定のフォルダを指定して、複数のファイルを一括でコピー・管理する機能も搭載されています。これにより、大量のファイルを効率的に扱うことができます。

6. 検索機能とデータエクスポート

システム内に蓄積された案件データは、高度な検索機能を使って簡単に探し出すことができます。

- 検索メニューのカスタマイズ**
 特許案件や商標案件、登録済み案件などをカテゴリごとにフィルタリングして表示できます。また、検索結果は CSV 形式でダウンロード可能で、システムから直接データをエクスポートできます。
- 集計機能**
 出願件数や登録状況など、案件の統計データをグラフ形式で表示する機能も備えています。年ごとの出願件数や、代理人の負荷状況を視覚化することで、知財業務の進捗管理がしやすくなります。

7. 年金管理機能

特許の年金管理は多くの企業にとって煩雑な作業です。root ip では、NGB(日本年金管理株式会社)との CSV 連携により、年金管理の自動化を実現しています。

- **年金管理会社との連携**
API を利用して年金管理データを自動でやり取りできるようにし、手動での入力ミスや二重管理を防ぎます。将来的には、CSV よりもさらに便利な API 連携を進める計画です。

8. API 連携とシステム拡張

root ip は、API や CSV 連携を使って他のシステムとも柔軟に接続でき、カスタマイズ性が高いのが特徴です。

- **API の提供**
システムの拡張性を高めるために、root ip は独自の API を提供しています。この API を利用することで、企業の社内システムと連携し、知財データの自動処理を行うことが可能です。例えば、Python で簡単なプログラムを作成し、root ip の API を呼び出すことで、特定の知財データを自動的に取得・更新できます。
- **CSV インポート/エクスポート機能**
CSV 形式のデータインポート・エクスポート機能も充実しており、特許庁のデータや社内システムのデータを自由にやり取りできる仕組みが整っています。

9. 生成 AI の活用

最近では、生成 AI を活用した機能も導入されており、知財業務の効率化に貢献しています。

- **明細書チェックの AI 機能**
生成 AI を用いて特許明細書の内容をチェックし、文法の誤りや不適切な表現を自動的に検出します。また、AI による提案機能で、より良い明細書作成のアドバイスも得られます。

10. 開発リクエストとカスタマイズ

root ip は、ユーザーからのフィードバックに基づき、新しい機能の開発を進めています。ユーザーが欲しい機能をリクエストでき、それが多数のユーザーに支持されると、優先的に開発されます。

- **リアルタイムの機能リクエスト**

ユーザーはシステム上で開発リクエストを登録でき、他のユーザーが「いいね」をつけることで、開発優先度が決まります。

まとめ

root ip のシステムは、知財管理のあらゆる業務を自動化・効率化するために設計されており、API や AI など最新の技術を駆使して知財部門の負担を軽減することを目指しています。特に、外部ストレージとの連携やメールの自動化、年金管理など、多くの機能が備わっており、知財管理の効率を飛躍的に向上させることが期待されています。

4o

あなた:

AI の活用をくわしく

ChatGPT:

ChatGPT

root ip のシステムにおける AI の活用について、ドキュメントに基づき詳しく説明します。特に生成 AI を活用した機能が中心であり、知財業務の効率化と精度向上に大きく貢献しています。

1. AI の役割: 作業の自動化と効率化

AI は、知財業務の中で繰り返し発生する作業やミスを自動的に検出し、修正を提案することで、担当者の負担を軽減し、作業効率を高める役割を果たします。具体的には、以下のような機能が搭載されています。

2. 明細書チェック AI

知財業務において重要な特許明細書の作成や確認は、専門知識を必要とし、多くの時間と労力を伴います。root ip のシステムでは、生成 AI を用いて明細書の内容をチェックし、より精度の高い明細書を作成するための機能が提供されています。

- **文法や誤字の自動検出**
明細書内の文法の誤りや誤字脱字を AI が自動的に検出します。これにより、人間による確認作業が不要になり、作業のスピードと正確性が向上します。
- **請求項のチェック**
特許明細書における請求項の記載が正確かどうか、AI がチェックします。特に、請求項で禁止されている表現や用語(例:「マルチマルチ」の使用禁止など)を自動的に指摘する機能が備わっています。これにより、拒絶理由通知を受けるリスクが減り、出願時のミスを防止できます。
- **先行技術の自動参照**
明細書内で参照される先行技術との関係性も AI がチェックし、関連する文献や引用文献が適切に扱われているかを確認します。

3. 生成 AI による提案機能

生成 AI は、単なるチェックにとどまらず、明細書の改善提案も行います。従来のプログラムによるチェック機能では、一定のルールに基づいて指摘するだけでしたが、生成 AI は文脈を理解し、より高度な提案を行うことができます。

- **適切な日本語表現の提案**
特許明細書の中で、AI が文脈に応じた適切な日本語表現を提案します。これにより、文章が読みやすく、わかりやすい内容に改善されます。
- **受け取り手(特許庁審査官など)を意識した改善**
生成 AI は、特許庁の審査基準や過去の拒絶理由を学習しており、それに基づいて、審査官が好む明確で論理的な表現を提案することができます。これにより、拒絶されるリスクを減らし、スムーズな審査を実現します。

4. メール自動化 AI

root ip のシステムでは、特許事務所や企業とのやり取りに関するメールの作成や管理にも AI を活用しています。特に、受信したメールを AI が解析し、次に何をすべきかを自動的に教えてくれる機能が搭載されています。

- **メールの自動応答**
AI が受信したメールの内容を解析し、そのメールに対する適切な応答を自動生成します。例えば、特許事務所からの質問や依頼に対して、生成 AI がすぐに対応可能な返信を提案し、担当者の確認の後、送信できます。

- **案件情報との自動連携**

AI はメールの内容を読み込み、root ip のシステム内にある案件情報と自動的に照合します。これにより、メールで受け取った出願番号や日付などの情報を案件データベースに反映させることができ、手動入力の手間を省きます。

- **差分の自動検出**

メールでやり取りされた情報と、システム内のデータに違いがある場合、その差分を AI が自動的に検出し、修正を提案します。これにより、データの一貫性が保たれ、ミスを未然に防ぐことができます。

5. RPA との連携

AI だけでなく、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を用いて、特定の作業を自動化することも可能です。RPA はユーザーの操作を模倣し、ルーチンワークを自動的に実行しますが、AI との連携によってその精度や柔軟性が向上します。

- **クリック操作の自動化**

AI が RPA を支援し、特定の操作(例えば、データベースからの情報収集や、特定の Web ページでの情報検索)を自動的に実行します。これにより、ユーザーの負担が軽減され、時間の節約が可能です。

6. 知財 DX(デジタルトランスフォーメーション)における AI の位置づけ

知財 DX の中で、AI は単なる作業の効率化ツールにとどまらず、知財業務全体を変革するための中核的な技術と位置づけられています。特に生成 AI の活用によって、以下のような大きな変化が期待されています：

- **自動化の進化**

AI は従来のルールベースの自動化に比べ、文脈やニュアンスを理解する能力を持っており、より高度な自動化を実現します。これにより、担当者がこれまで手動で行っていた多くの作業が AI に任せられるようになります。

- **クリエイティブな業務へのシフト**

反復的な作業が AI によって自動化されることで、知財担当者は戦略的でクリエイティブな業務に集中できるようになります。例えば、新しい特許出願の戦略立案や、知財ポートフォリオの最適化といった、より価値のある業務に時間を割けるようになります。

7. 生成 AI を活用したさらなる拡張

root ip の AI は今後さらに進化していく予定です。生成 AI を活用した新機能の追加や、既存機能の強化が進められており、ユーザーからのフィードバックを基に、より実用的な AI サービスが開発されます。

- **AI サービスの拡張**

メールや明細書チェック以外にも、ユーザーが必要とするさまざまな場面で AI が支援できるよう、機能の拡充が計画されています。

- **ユーザー事例に基づいた実用的な AI の開発**

実際のユーザー事例を基に、どのような知財業務で AI が最も有効かが検証され、その結果をもとに新しい AI 機能が追加されていきます。

まとめ

root ip の AI 機能は、知財業務の効率化に大きく貢献しており、特に生成 AI による明細書チェックやメールの自動化が特徴的です。今後も知財 DX を推進するための中心的な技術として、さらなる進化が期待されます。

4o

あなた:

事例紹介を詳しく

ChatGPT:

ChatGPT

root ip のシステム導入事例として、特にパラマウントベッド株式会社の事例が詳しく紹介されています。この事例は、root ip の API と生成 AI の活用により、知財業務の大幅な効率化を実現した例として取り上げられています。

1. 導入の背景

パラマウントベッド株式会社は、大規模な知財部を持ちながらも、知財管理の効率化を課題として抱えていました。従来は外部委託などで知財業務を管理していましたが、社内での効率化を図りたいというニーズがありました。そこで、root ip の API と Python を活用して、システムを内製化し、自社の知財業務を大幅に効率化することを決断しました。

2. 内製化の実現

この取り組みでは、パラマウントベッドの知財部メンバーが中心となり、システムの内製化が進められました。特筆すべき点は、知財部のメンバーがわずか3人であり、プログラミングの専門家ではなく、知財業務が本業であったにも関わらず、APIを活用して高度なシステムを構築したことです。

- **プログラミング経験の乏しさを克服**
知財部メンバーは、元々プログラミングに詳しいわけではなく、Pythonの入門書を1冊読み、さらに生成AI(チャットGPTなど)と対話しながら開発を進めました。この点が非常にユニークで、AIを使うことでプログラミングに不慣れなメンバーでもシステムを構築できたという成功事例です。
- **生成AIのサポート**
生成AIは、プログラムの書き方やエラー修正に役立ち、メンバーが自分で解決できない問題を迅速に解決するのに大きく貢献しました。これにより、システム開発のスピードが飛躍的に向上しました。

3. 導入効果

パラマウントベッドの知財部では、root ip と生成AIを活用することで、業務効率が劇的に向上しました。以下のような具体的な効果が得られました：

- **業務効率の劇的な向上**
導入前の業務を10とすると、root ip 導入後は0.5にまで縮小できたとされています。つまり、従来の業務量が10倍以上の効率で進められるようになり、知財業務全体の大幅な効率化が実現しました。
- **スピード感のある開発と改善**
知財部のメンバー間で近距離に座っていることもあり、システム改善の要望が出るとすぐに開発が進められ、リアルタイムで業務効率化が図られるという環境が整いました。このフットワークの軽さが、迅速なシステム改善を可能にしました。

4. 経営陣の評価

経営陣からも、root ip 導入による知財業務の効率化に対して高い評価が得られました。導入後のシステムによって知財管理が飛躍的に便利になり、さらに「もっと便利にしてほしい」という要望も継続して出されているとのこと。これは、システムがいかに実用的であり、導入効果があったかを示す重要なポイントです。

5. パラマウントベッドの事例が示す知財 DX の可能性

この事例は、特に次の2つの点で知財 DX の可能性を示しています：

- **内製化の力**
知財業務は通常、外部委託や特許事務所に依頼されることが多いですが、パラマウントベッドではシステムを内製化し、社内での業務を自動化しました。この内製化によって、外部への依存を減らし、内部リソースを最大限活用することができています。
- **生成 AI の実用性**
生成 AI が知財業務のシステム開発においても非常に効果的であることを示しています。プログラミング未経験のメンバーでも、AI のサポートによって高度なシステムを構築できたことは、他の企業にとっても知財 DX を進める際の重要な参考例となります。

6. root ip のサポートと今後の展開

root ip のシステムは、ユーザーのニーズに合わせて柔軟にカスタマイズ可能であり、生成 AI との連携によるさらなる機能拡張が予定されています。今後も、企業や特許事務所の業務効率化を支援するための新機能が追加され、知財 DX の推進に貢献することが期待されています。

まとめ

パラマウントベッド株式会社の事例は、root ip のシステムが知財業務における劇的な効率化を実現することを示す成功事例です。特に、生成 AI と API を活用した内製化によって、少人数のチームでも高度な知財管理システムを構築し、業務の大幅な効率化を達成しました。この事例は、知財 DX の可能性を広げ、他の企業にとっても参考となるモデルケースです。

4o

あなた:

今後の開発計画を詳しく

ChatGPT:

ChatGPT

root ip の今後の開発計画は、知財業務のさらなる効率化とユーザーのニーズに応えるための新機能の拡充が中心です。以下、開発計画について詳しく説明します。

1. API の拡充

API(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)の拡充は、今後の開発計画における重要な要素の一つです。API を利用することで、root ip システムと外部システムや社内システムとの連携がさらに強化され、データの自動連携や処理が可能になります。

- **MS365(Microsoft 365)対応**
現在進められている開発の一つとして、Microsoft 365 への対応が挙げられています。MS365 は多くの企業で利用されているビジネスツールであり、これと API 連携を強化することで、例えば Outlook や Excel とのデータ連携がよりスムーズになります。これにより、知財関連のメールやドキュメント管理が自動化され、業務の効率化がさらに進むと予想されます。
- **他の外部システムとの連携強化**
API 連携は、特許庁や年金管理会社などの外部システムとも今後さらに拡充されていく予定です。特に、欧州特許庁(EPO)やアメリカ特許商標庁(USPTO)など、国外の特許機関との API 連携を強化し、世界中の特許情報を一元的に管理するための機能を提供することが目指されています。

2. AI サービスの拡張

現在提供されている AI による明細書チェック機能やメール自動化機能は、今後さらに高度化・拡充される予定です。AI サービスの拡張により、知財業務の自動化がさらに進み、知財担当者が本来の業務に集中できる環境を整えます。

- **生成 AI のさらなる活用**
生成 AI を活用した新機能が開発中です。例えば、AI による明細書のさらなる最適化や、特許出願時の戦略的なアドバイス機能の提供が計画されています。また、ユーザーのリクエストに応じたカスタマイズされた AI サービスの提供も進められる見込みです。
- **AI によるデータ分析と提案機能**
今後は AI が蓄積された知財データを分析し、特許出願の傾向や競合他社の動向を把握し、次の一手を提案する機能が追加される予定です。これにより、

知財戦略の策定がより精緻化され、競争優位性を高めることが可能になります。

3. セキュリティ対策の強化

セキュリティは、知財管理において非常に重要な要素です。root ip は現在、セキュリティ対策をさらに強化しており、外部からの攻撃に対する脆弱性診断を実施しています。

- **脆弱性診断の実施**
現在進行中のセキュリティ対策の一環として、サーバーの脆弱性診断を継続的に実施しています。これにより、日々の攻撃に対して防御力を高めるための対策が取られており、知財データの安全性が確保されます。
- **個別企業ごとのセキュリティ設定**
各企業ごとのセキュリティ要件に応じたカスタム設定機能の開発も進められています。特に大規模企業や多国籍企業において、アクセス権限の管理や、データの保護に関するカスタマイズが可能になる予定です。

4. 外国特許庁との連携拡充

root ip は、日本国内の特許庁だけでなく、外国特許庁との連携も強化しています。現在は欧州特許庁(EPO)との連携が進められていますが、今後はさらに多くの国々の特許庁と API 連携を行い、グローバルな知財管理が実現できるようになります。

- **米国特許商標庁(USPTO)との連携**
米国特許商標庁との API 連携も計画されており、米国での特許出願や管理がシームレスに行えるようになる予定です。これにより、企業は日本国内外での知財管理を一元的に行うことが可能となります。
- **他国との API 連携**
欧州や米国に限らず、アジア諸国や新興国の特許庁とも API 連携を進めていく計画があります。これにより、世界中の知財データを統合的に管理できるシステムが構築されることが期待されています。

5. 表示権限のカスタム設定

ユーザーごとに異なる権限やニーズに応じて、表示内容をカスタマイズできる機能の開発も予定されています。

- **表示カスタマイズ機能**

知財管理システムにおいて、各ユーザーが必要な情報に迅速にアクセスできるよう、表示内容を自由にカスタマイズできる機能が強化されます。例えば、担当者ごとに異なる案件情報を表示したり、重要な指標を一目で確認できるマイページやマイダッシュボードの作成が可能になります。

- **役割ごとの権限管理**

企業の規模や組織体制に応じて、各担当者に割り当てられる表示権限を細かく設定できるようになります。これにより、権限のない情報にはアクセスできないよう制限するなど、セキュリティ面でも強化が図られます。

6. ユーザーからのリクエストに基づいた開発

root ip の開発計画では、ユーザーからのフィードバックが非常に重視されています。現在、システムにはユーザーが欲しい機能をリクエストできる機能が組み込まれており、そのリクエストが多ければ多いほど、開発の優先順位が高くなる仕組みになっています。

- **リアルタイムのリクエスト反映**

ユーザーがシステム上でリクエストを提出し、他のユーザーが「いいね」ボタンを押して支持することで、開発の優先度が決定されます。この仕組みにより、リアルタイムでユーザーのニーズが反映され、必要な機能が迅速に開発される仕組みが整っています。

- **104 件以上のリクエストに対応済み**

これまでに 200 件以上のリクエストが寄せられ、そのうち約半数にあたる 104 件以上がすでに対応済みとなっています。残りのリクエストも優先度に応じて順次対応されていく予定です。

7. サンプルコードと開発支援

root ip は、ユーザーがシステムを自社にカスタマイズできるよう、サンプルコードや開発支援ツールを提供しています。

- **GitHub でのサンプルコード公開**

root ip の API を利用するためのサンプルコードが GitHub 上で公開されており、ユーザーが自由にカスタマイズできるようになっています。これにより、特別なプログラミングスキルがなくても、root ip のシステムを自社に最適化して利用できるようになります。

- **サポート体制の充実**

root ip はサポート体制も充実しており、ユーザーが API を使って自社システムを開発する際に、技術的な支援を受けることができます。これにより、システム開発がスムーズに進むよう支援されます。

まとめ

root ip の今後の開発計画は、API の拡充、AI サービスの強化、セキュリティの強化、外国特許庁との連携拡大など、知財業務の効率化をさらに進めるための多岐にわたるものです。特に、ユーザーのニーズに応じた機能拡張やサポート体制が充実しており、今後のシステムの進化が期待されています。

40